

掛川古城(掛川城, 天王山城)(掛川市掛川)(龍華院)

文明年(1469-87)間、駿河の今川義忠が遠州への侵攻拠点として、家臣朝比奈泰熙に築城させたとされている。

今川義忠は、応仁・文明の乱では東軍に属していたが、西軍である美濃斎藤氏の押さえを期待して遠州掛川郷を与えたと考えられる。

朝比奈氏は今川氏の重臣で、今川氏の先兵として掛川郷に送り込まれたと考えられる。

泰熙は天王山(子角山)を中心として広い範囲に築城し、これを掛川城と呼んだ。

朝比奈氏はこの掛川城を拠点として遠州攻略を進め、遠州の今川氏支配を磐石のものとしていった。

その後泰熙は、龍頭山に新たな城を築城し、永正 10(1514)年には掛川新城が完成して本拠を移した。

大永 2(1522)年、掛川城を訪れた連歌師の宗長は、手記に築城中であることを綴っている。

永禄 11(1568)年、武田信玄の攻撃によって駿府の館を逃れた今川氏真は、重臣の朝比奈泰朝を頼って掛川に逃れてきた。

同年、徳川家康が遠州に侵攻し、掛川城に籠城した泰朝と氏真を攻撃するとなった。

翌 12 年、家康は掛川古城の天王山に猛攻を加えてこれを奪取し、掛川城攻略の本陣とした。

5 月になると、今川氏真・朝比奈泰朝の両名は小田原城の北条氏を頼って落ちていった。

これによって掛川古城は完全に廃された。

明暦元(1655)年、掛川城主北条氏重によって、掛川古城本丸跡に徳川家光の霊牌が勧請されて霊廟大猷院殿霊廟が建てられた。

帝國博物学協会による

